

# 香取遺産

vol.138

## 「遠く離れた山々への信仰」 — 出羽三山供養塔 —

月山・羽黒山・湯殿山などと書かれた供養塔を各地の神社やお寺などで見かけた人は多いと思います。

この三山は出羽三山と言われ、山形県の中央部に位置しています。地形的には一つの山ですが、そこにある三つの峰を三山としています。中央にそびえる月山が最も高く、羽黒・湯殿の両山がその左右にあります。出羽三山は、およそ1400年前、崇峻天皇の第一皇子の皇子皇子が開山したといわれ、古くから山岳修験(山伏)の霊場として知られています。三山はそれぞれ現在・過去・未来を表し、羽黒山は現在の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれ変わりを祈る山(未来)と言われています。生きながら若々しい生命をよみがえらせることができるという信仰は、江戸時代に「生まれ変わりの旅」となって、西の伊勢参りとともに東日本一円に広まりました。

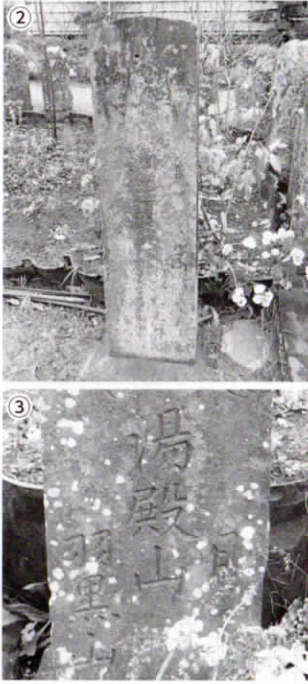
三山詣は、五穀豊穡・海上安全・家内安全・無病息災を祈願してくるもので、男子で15歳あるいは30歳を越えた者は一生に一度必ず参詣に行くものだといわれている地域もあります。また、三山の信仰集団は、三山講、湯殿山講、湯殿講、権現講、奥講などと呼ばれています。通

例、これらの講集団は地域ごとに組織されており、毎年くじ引きなどでその年の参詣者(代参者)を決めます。代参者は出発前の一定期間(精進潔斎)を行った後、鎮守に参拝して道中の無事を祈願し、帰村の際にも鎮守に参拝して礼参りを行いました。

千葉県は三山から遠隔の地でありながら、強く出羽三山信仰が根をおろした、関東地方では最も信仰の盛んな県となっています。特に房総半島西部には、今でも三山信仰に関わる行事が行われている地域があります。市内各地区の神社やお寺などにも、江戸時代後期から幕末にかけての三山の名が書かれた供養塔が多く見られ、信者が参拝記念に造立したものと思われる。

江戸時代の出羽三山参詣は、途中の神社仏閣や観光地をまわり、40日を超す長旅の上、出羽三山での滞在はわずか3日という大変なものでした。農作業の忙しい時期に、多額の費用をかけてまで参詣した出羽三山は、地域の人々にとって特別な場所であったのでしよう。

関生涯学習課 ☎(50)1224



①諏訪神社(下小堀)、②③密蔵寺(岩ヶ崎台)

